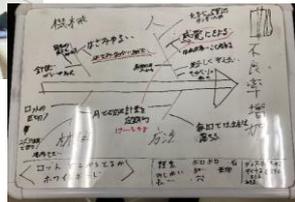


労継続支援 A 型事業所における利用者の知識・能力向上に係る実施状況報告

事業所名	ワークスペースファイン	事業所番号	0111401873
住 所	函館市美原2丁目6番19号	管理者名	松倉 博勝
電話番号	0138-76-4686	対象年度	令和 6 年度

利用者の知識・能力向上に係る実施概要

<p><活動内容></p> <p>活動場所：ワークスペースファイン</p> <p>実施日程：令和7年3月31日</p> <p>研修の内容： 品質管理の基本的な取り組みについて研修を行った。 グループディスカッションにおいては、3グループに分かれ、それぞれの作業について特性要因図を用い、特性（結果）の選定、要因の分析を行った。 主要要因について分析し、今後の取り組みを決定した。 利用者数：15名</p>	<p><活動の様子></p>  <p>品質管理研修</p>
<p><目的></p> <ul style="list-style-type: none"> 品質管理の取り組み方の習得。 品質と生産性の意識向上。 事業所で行っている作業についての品質向上と生産性向上。 他者との対話・意見交換による協調性や表現力の向上。 グループで分析・改善策を立てるプロセスにより一体感や信頼関係を築く。 	 <p>グループディスカッション</p>
<p><成果></p> <ul style="list-style-type: none"> 品質管理の基本的取り組み方について習得できた。 品質と生産性の意識向上が図れた。 特性要因図を用いたことで、わかりやすく作業を見直すことができた。 普段あまりコミュニケーションを取らない利用者同士でも、目的を共有する中で会話が生まれた。 今後の取り組みについて明確化できた。 	 <p>特性要因図</p>

連携先の企業や事業所等の意見または評価

<ul style="list-style-type: none"> この研修により今後の改善策が明確になったことで、品質と生産性の向上が見込める。 単なる作業提供にとどまらず、品質管理という企業レベルのスキルや考え方を利用者に学んでもらうことが出来た。 障がい特性を踏まえながらも、あえて少し高めな目標（品質分析、要因分析）を設定することで、利用者の可能性を広げる取り組みができた。 コミュニケーションに課題のある利用者に対して、グループディスカッションの場を設けたことで、今までにないコミュニケーションがとれた。 グループで今後の取り組みを決定した点は、単発の研修に終わらせず、継続的な改善サイクル（PDCA）の一步として評価できる。
--

連携先企業（担当者）	ワークスペースファイン 管理者 松倉 博勝
------------	-----------------------

利用者からの意見・評価

<ul style="list-style-type: none"> 生産管理という言葉はこれまでに聞いたことはあったが、具体的な内容まではわからなかったので勉強になった。 特性要因図による分析や、PDCAサイクルにおける課題や対策の落とし込みを理解することで、自分自身の課題にも応用できると思った。 少し難しく、わかりづらいところもあったが勉強になった。 改善策を意識するあまり、翌日の作業では慎重になりすぎて生産量が減ってしまったが、品質意識は高まった。 グループディスカッションではなかなか意見を言えなかったが、他の人の意見を聞いて参考になった。 今後の自分自身の課題について取り組むための良い機会になった。
